

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成28年2月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100797		
法人名	社会福祉法人やつなみ		
事業所名	グループホームやつなみ		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	和歌山市西庄489		
自己評価作成日	2015年12月8日	評価結果市町村受理日	2016年2月25日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	非営利法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成28年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ここが私のパラダイスという安心」「今まで生きてきて良かったという喜び」「まだまだ長生きしたいという希望」を感じていただけるような心のこもった介護の提供に日々努力しています。「健康を食の面から支える」の実現のため、可能な限り手作りにこだわり、豊富な食材を和洋中に組み合わせ、味付け、盛り付け、栄養のバランスを考慮した食事にスイーツまたはデザートを添えて提供しています。よくしゃべり、よく動き、よく笑い、生きがいを持てるよう、多彩なアクティビティやレクリエーションの提供に心がけています。一人一人の好みに対応し、感染症防止、清潔が保たれた完全個室を実施しています。絵画や書を飾り、うるおいのある生活空間を創出しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームやつなみは小規模多機能型居宅介護事業所を併設した2ユニットのグループホームで、相互の職員の連携により利用者が不意に散歩に出掛けようとしても制止することなくそっと寄り添うケアが可能となっている。現在の入居者は女性のみで、毎朝ダイニングでそれぞれ鏡に向かって化粧をする等身だしなみを整える習慣も大切にしている。地域の住民との交流を積極的に図るために、職員には挨拶の徹底を指導している。運営推進会議で提案があり開催した昨年の秋祭りには100人近い地域住民の参加があった。事業所の秋祭りの際には参加者が駐車場の誘導を行う等の協力を得ることが出来ている。事業所内の多目的室で2カ月に1回開催している家族交流会に出席して運営推進会議の報告を行う等、入居者家族との関係づくりにも努めている。運営推進会議の内容は、家族交流会に参加していない家族にも利用料請求時に報告している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝礼時に、やつなみ理念を唱和し、申し送りに必要な場合は、項目に即応した理念の内容をかみくだいて説明し、理解できるよう努めている。実践につなげているスタッフもでてきている。	法人独自のやつなみ理念を毎朝礼時に職員全員で唱和し、日頃から職員全員の理念の周知徹底を図っている。入職の際など理念を学ぶ研修を設け、日頃のサービスにおいて理念が実践できるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の木ノ本八幡宮で行われている県指定の無形文化財獅子舞を見学に行ったり、同じく近隣の県立中学校や支援学校の行事に招待を頂くので交流を行っている。施設近辺を散歩する際には、農作業の方に挨拶するので顔なじみになっている。施設の菜園についてアドバイスしてもらうなど交流ができています。	自治会に加入していないが、自治会長が運営推進会議に毎回参加している。日常の散歩において近隣住民と挨拶を交わしたり、農作業のアドバイスを受けるなど自治会や近隣住民とは良好な関係を築いている。また、地元の小中学校や支援学校の行事に参加したり、事業所に中学生を招くなど、地域との積極的な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の80%が最寄りの理髪店を利用し、顔や名前、症状を知ってもらい、徘徊した場合に報せにきてくれるなど連携が図れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、包括支援センター職員、民生・児童委員、自治会長、家族代表、法人役員で構成する会議を開催し意見や評価を頂き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は併設する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2ヶ月毎に開催している。利用者家族は各事業所から1名ずつ家族会の代表が出席し、主に入居状況や利用者の暮らしぶり、事業所行事についての報告を行っている。運営推進会議で意見や提案等を出してもらいやすい雰囲気づくりに努めている。意見や提案等は、月1回のケア会議や朝礼で職員に口頭で報告している。事業所内の秋祭りに地域住民を招く等、提案をサービス向上に活かしている。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>わからないことや解釈の仕方などについて、和歌山市にたずねたり、意見を頂いたり、連絡は密に行っている。</p>	<p>日頃から市の担当課に出向き、居室の空き情報等の報告をしている。担当者とは気さくに話ができる関係を築いている。市の担当者も参加している老人福祉施設協議会の会議や研修にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>基準が理解できていない職員がないわけではないが、法人の方針として、日中においては玄関までのすべての出入り口、居室のどこにも施錠は行っていないし、身体拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関は日中は施錠をしていない。帰宅願望の強い利用者、外出願望のある利用者に対しては小規模多機能型居宅介護事業所の職員と連携し、利用者に付き添って戸外に出るようにしている。内部研修において、身体拘束チェックリストを利用して、職員の気づきを促し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>TV, 新聞等で報道されていることに関心を持ち他山の石にすることなく互いにチェック機能を働かせて虐待に至らないように取り組んでおり、研修も行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者のおひとりが、今年度より成年後見人制度を利用していて弁護士さんからの連絡を通して実際に事例として知る機会を得ている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書を利用者・ご家族の前で読み上げ納得、同意いただいたうえで、利用開始前に契約書を交わしている。改定時には書面を提示し理解を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族さんからの電話連絡はいつでも受け入れている。施設からの報告はできるだけ多くできるよう工夫している。家族交流会を通じて意見や希望を聞き、運営に反映させている。</p>	<p>意見箱は設置していない。家族とは管理者が電話連絡により利用者の様子を伝える中で意見等を聞き取っている。2ヶ月に1回の頻度で家族交流会を開催し、家族代表が招集、司会進行等の役割を務めている。家族からの意見等はケア会議や朝礼時に報告し、サービスに反映している。</p>	

11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>代表者が管理者として常時、現場に出ており朝礼時に意見や提案を聞く機会がある。ケア会議を通じても意見や提案を聞くことができおり、運営面に反映させることができている。</p>	<p>管理者がいつも現場にいて、朝礼時やケア会議において、職員から意見や提案を聴く機会を設けている。ヒヤリハット用の紙を見直したり、利用者をモデルとしてファッションショーを開催するなど職員の意見や提案を運営に反映させている。また、「エエトコシート」という職員同士でいいところを書き合うシートを用いて、職員の気づきを促す取り組みも行っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者が管理者として常時、現場に出ており、職場環境についてはつぶさに見て感じて対応している</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実力の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>開設1年半の施設で職員の人材育成は行き届いていないと感じている。研修計画を立てて実施できるよう努めているところである。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>管理者は、老人福祉施設協議会の会合や研修に参加することで、同業者の状況や意見を聞く機会がある。そのことを施設職員に伝達を行い、サービスの質の向上に努めている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族、親族が見学に来られたり、説明を求められもするので、その都度案内し、施設のことを説明し、理解してもらったうえで入居申し込みをしてもらっている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族さんの訴えや介護の実態を聞き取り、入居後においても連絡報告相談を行っている。</p>		

17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人の意思や意向を第一に尊重して対応したい旨をまず伝える。入居に際しては、ご本人様が馴染めるかどうかを支援の基本にしていることも伝えている。建物内のデイサービスを利用できることを説明している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>お寿司やカレー、お好み焼き等テーブルクッキングの際に準備を関わってもらったり、施設の畑作業や草引き、水やりを共に行う。掃除の時間には声掛け合って共に行ったり、七夕やお月見、お彼岸など行事に際しての諸準備もともに行っている。</p>		
19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会は制限を設けずいつでも自由に行っている。車いすをお貸ししての散歩、傾聴、かるたの札読み、音楽活動などご家族の参加を促し、やっってもらっている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会に際し、同意を得られた場合には少しの時間同席さしてもらい、ご入居前のご様子や関わりなどを知るうえで参考にしている。</p>	<p>利用者が在宅時に利用していた事業所のヘルパーや、利用者のかつての教え子が面会に来所したり、馴染みの美容院と一緒にいくなど、馴染みの人や場所との関係継続の支援に取り組んでいる。以前に住んでいた家や墓参りなど、遠方の場所には家族に同行してもらっている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様同士気の合う人を見極め、座席の配慮をしたり、一緒に外出するなど親しめる状況をつくり、交流を図ってもらえるようにしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所された方の入院先に訪問し様子を伺ったり、退所された方のご家族から電話にて、その後の様子について連絡をいただくこともある。施設に来て、入居中の方と話をしていたこともあった。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「わたしのこと知ってほシート」を活用し、職員間で共有しているが、職員間で認識にばらつきがある。</p>	<p>センター方式を改良して作成した「わたしのこと知ってほシート」に、日々の支援を通じて職員が聴き取った利用者の希望や意向を記入している。聴き取った情報は申し送り時等に職員に伝達するとともに、このシートを活用して職員間で情報の共有をしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>生活歴、職歴等差し支えない限り聞き取りを行い、サービス利用の経過についても担当ケアマネから情報を得ている。</p>	/	/
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>体調や心身の状況に応じたアクティビティ、趣味や文化の程度を把握して生きがいにつながるよう支援している。</p>	/	/
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>無資格、未経験者が多く、チームによる介護計画、モニタリングを実施するにはいたっておらず、ご本人、家族さん、管理者（ケアマネ）の三者により計画作成しているケースが多く、今後の課題としたい。</p>	<p>介護計画は毎月見直している。利用者本人、家族、管理者（計画作成担当者）の三者により作成しているが、事前に介護職員や看護師等の意見を聴き取り、介護計画に反映させている。日々のケアに於いてわずかな変化にも気を配るように努めている。</p>	<p>介護計画は本人、家族、必要な関係者の話し合いにより作成していくことが望ましい。事情の如何にかかわらず、介護記録を基に介護職員や看護師等必要な関係者を交えて話し合いによる介護計画の作成ができるよう期待する。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録による情報の共有はできているが、介護計画の見直しに活かすまでには至っていない。</p>	/	/
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ユニット間の交流、小規模多機能施設の利用者との交流を図り、より多くの人間関係が生まれ、楽しみが増えるように努めている。</p>	/	/

29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入居者が地域の一員として暮らしているよう近くの理容店を利用したり、100均ショップへ買い物に行ったり、農家の方との交流、公立学校との交流、初もうでや秋祭り見物などを通じて豊かな暮らしを目指している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に本人・家族さんとの希望をたずね、施設の協力医にかかるか、従来のかかりつけ医にかかるかの選択をいただき、協力医に受診する場合は職員による送迎、付添を行い、状況の説明や、処置の説明を受け家族さんに伝達するなどしている。従来のかかりつけ医への受診は原則、家族さんに行っていたが、受診後状況を伝えていただいている。</p>	<p>利用者が希望する医療機関での受診を支援している。入居をきっかけに協力医での受診を希望する利用者が多いが、これまでのかかりつけ医に家族同行で受診している利用者もいる。協力医への受診は職員が付き添い、受診の都度結果を電話で家族に報告し経過の共有を図っている。職員間では口頭で伝達し利用者の状態を把握している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週1回訪問看護ステーションから看護師が来訪、体調やバイタルの管理、相談援助を行ってくださり、特変や異常があれば指示を行い、記録を残して下さっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院の地域連携室、サポートセンターの職員方とは日頃より親しくし情報を提供するなど、入居者様にとってプラスになるよう心掛けている。入院中は希望により洗濯物などを家族に代わって取りに行くなど、病室にも出向き、病院関係者と情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>現状では、終末期について現実味のある方はないが、家族交流会にて話し合いの機会を持ち、終末期を当施設でと望まれるご本人様、ご家族様の意向を尊重し、説明文書、同意文書の用意があることを伝えている。</p>	<p>重要事項説明書で看取りの受け入れ態勢について明記しており、利用者や親族の意向を確認する文書を配布しているが、全利用者分の回収はできていない。これまで看取りの実例が無く、具体的な方針や職員のマニュアルは整備中である。協力医や訪問看護師の確保は出来ている。</p>	<p>事業所での対応を詳細に説明できるように、整備中である看取りの方針や職員の手順書・マニュアルを早急に完成させることが望まれる。</p>

34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期の対応についてマニュアルを策定している。救急法やAEDの使用についての講習は、管理者のみしか受講しておらず、今後全職員に受講させる予定である。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防器具の点検は定期的に業者に委託し行っている。消防訓練は年2回以上行い、年1回は消防署員立会いの下行っている。消防計画を作成し研修を行っている。	消防計画を作成し年2回の訓練を実施、内1回は消防署立会いの下で行っている。新人研修ではマニュアルを用いて説明している。水・乾パン・缶詰を3日分程度備蓄している。近隣住民との交流はあるが、災害時の協力体制を築くまでには至っておらず、運営推進会議で協力を仰いでいる。	自治会との良好な関係を利用し、回覧板で消防訓練の参加を呼び掛けてもらうなど近隣住民と災害時の相互の協力について話し合う機会の確保が望まれる。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、日頃から丁寧な言葉を使い、姓名でのよびかけや失礼のない態度を心がけるよう指導しているが、不十分であると感じている。	守秘義務やプライバシーの確保、身体拘束等の研修を全職員に実施し、日頃から気付いた事は都度注意し合っている。特に言葉遣いや呼び名についての配慮を重視している。個人情報を含む書類は鍵のかかる書庫にて保管している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活については意向の確認を確実にし、自己決定を尊重するように心がけている。入居者様同士の会話やつぶやき、ぼやきを聞き逃さないようにしたり、施設や職員に対しての希望要望を言いやすい状況を創出し、特に入浴、食事についての日々の快や不快は直接問いかけ快適な生活が送れるよう努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護の方針の中で常に確認し合っている内容であるが、指導が行き渡っていないのが実状である。		

39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>フロアの自席、または居室で化粧する「化粧タイム」を設けている。必要に応じ職員が支援している。身だしなみやヘアカット、整髪、ヘアカラーは希望により実施できている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>朝食は、試行錯誤した結果、現在はバイキング形式をとっている。献立は栄養、味付け、色、形態、盛り付けに工夫し、土鍋やホットプレートも使い変化に富んだ食事を提供している。下ごしらえや簡単な調理などを共に行ったり、台ふき、配膳、下膳、洗い物など希望により行ってもらうこともある。</p>	<p>1週間の献立は立てているが、食材は毎日夕食から翌日の昼食分を買いに行くので季節の食材・鮮度・色合いを優先して変更する事もある。食後にはデザートを添えるようにしている。皮むきや食材を和える他、食卓拭きや配膳等食事準備は利用者と一緒にやっている。週1回程度は土鍋やホットプレートを使用して焼きそばや手作りギョーザ等、食卓で調理を楽しむメニューを取り入れている。日々の会話の中でリクエストがあればメニューに取り入れる事もある。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分補給は、記録をつけて1日1200cc以上摂取を目標にしている。デザートに果物や寒天ゼリーを毎食事に提供している。医師から指示のある入居者様には、野菜ジュース、バナナ等を別途提供したり、希望により牛乳の配達もしてもらっている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>義歯を自己管理できる方には確認のみを行い、できない方には、モーニングケア・ナイトケアの際に支援を行っている。希望や必要に応じて歯科受診してもらっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>水分摂取の把握により、排泄パターンを掴むようにしている。適切な声掛け、トイレ誘導により自尿を促している。</p>	<p>身体的に一部介助の利用者もいるが、多くの利用者はほぼ自立している。利用者毎に排泄パターンを把握し、さりげなくトイレに誘導している。夜間も個々のタイミングに合わせて声掛けし、出来る限りトイレで排泄できるように支援している。</p>	

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>居室にトイレがあるため、便の状態が把握しにくい現状にあり試行錯誤中である。毎朝自己申告してもらっている。出ていない場合は、芋、根菜類、牛乳、ビオフェルミン等個々の希望により対応している。訪問看護時にお腹のはり、ガスのたまり具合など観察してもらっている。適便も行ってもらおう。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>個室により、湯温、湯量、入浴時間等、好みに合わせている。浴槽は一人入浴の都度洗浄を行い、清潔を保ち、感染症予防に効果があると感じている。目安としての入浴日は決まっているが、ご本人様のタイミングを尊重するようにしている。</p>	<p>個室で利用者毎に湯を入れ替えて好みの湯量と湯温で週2回程度入浴している。シャンプーや入浴剤などの備品は設置しているが、多くの利用者は自分の使い慣れた物を使用している。希望すれば毎日入浴することも可能で、同性介助を行っている。季節により、全員がしょうぶ湯やゆず湯に入る事もある。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>昼寝の習慣の有無、目室でくつろぎたい、居間でくつろぎたい等、個々のペースを見守っている。夜中の安眠については、ドアの開け閉めや隣室の物音などには職員が留意し対応を行っている。日中のレクリエーション活動により心地良い疲れを感じてもらえるように工夫を行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>入居前のかかりつけ医やご家族様から情報を得て、入居後のかかりつけ医、協力医に引継ぎ、近くの調剤薬局から処方に応じた指導を受けてスタッフがセッティングし、確実に服薬してもらっている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>趣味や嗜好を大切に、できることを自発的にまたは、促すことにより行ってもらっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>敷地内、ウッドデッキでの日光浴、外気浴、施設菜園の手入れを目的として外出している。月に1～2回、車にて外出したり、外食に行ったりしている。週に1回程度は近隣を散歩している。外出を切望する方には1日複数回外出の支援を行っている。</p>	<p>日常的に利用者が食べる米の精米に職員と行ったり、近隣の散歩に出掛けている。天気の良い日はウッドデッキで自由に外気浴が出来る。家族の協力で墓参りや馴染みの美容室に出掛ける利用者もいる。ふらりと出掛けてしまう利用者には抑制せず、職員が付き添って満足するまで散歩するようにしている。</p>	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個々の能力に応じた対応をしている。物とられ妄想の症状がある入居者様にかぎっては、トラブル回避のため、原則同意を得て立替払いを実施している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を使用できる入居者様が3分の1程度あり、充電の支援などを行っている。施設にかかってきた電話は取り次いでいる。手紙は居室に届け、出したい場合の投函は支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>机の配置換えや席替えを随時行っている。折り紙で季節感を出したり、花などを活け、入居者様が見える場所に置いている。絵画や書、創作物などを壁面に飾っている。</p>	<p>共用スペースは壁面に水墨画や油絵等を飾り落ち着いた空間を意識して作っている。季節によって採光の向きに合わせたテーブル配置に変更し居心地よく寛げるように工夫している。リビングダイニングの中央に設置している鏡付の手洗いは、常に曇りや水気を拭き取り清潔に保つようになっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや和室、屋外のベンチなどがあり、一人になれる場所、入居者同士がおしゃべりできる場所を用意している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれの個室にトイレがあり、排泄に関するプライバシーが保たれている。入居前に使用していた家具や絵画等を持ち込んでいただいている。レクでの作品やぬり絵、カレンダー、ご家族の写真等を思い思いで飾るなどしている。ご主人のご位牌を祀っている方もある。</p>	<p>火気・刃物以外の持ち込みは自由で、それぞれの利用者が愛用していた家具やミシンなどを持ち込んでいる。家族の要望で、ベッドから居室内のトイレまでの移動が安全に行えるように手すりを設置している利用者もいる。エアコンの温度設定は職員と共に行い、冬場は洗面台に水を張ったり濡れタオルを掛けたりして乾燥を防ぐ工夫をしている。職員が毎朝数分窓を開けて換気を行い生活リズムを感じてもらえるように工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者様手作りの日めくりを用いて、毎朝日付の確認をしている。居室の入り口やトイレに表示をするなどして生活しやすいように工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない